

青葉の笛あおば ふえ  
(松口月城)まつぐちげつじょう

一の谷いち たにの 軍營ぐんえい 遂つひに 支さえず

平家へいけの 末路まつろ 人ひとをして 悲かなしましむ

戦雲せんうん 収おさまる 処ところ 残月ざんげつ 有あり

塞上さいじょう 笛ふえは 哀かなし 吹ふきし者ものは 誰たれぞ

一谷軍營遂不支 平家末路使人悲  
戦雲収處有殘月 塞上笛哀吹者誰

解説 源平、一の谷合戦の青葉の笛にまつわる敦盛哀話を詠じたもの。

語釈 ※一谷⇨兵庫県明石海岸の背後、鉄柎山の海に迫るところ。※軍營⇨陣屋。平家の陣營。※不支⇨支えきれない。敗れる。※末路⇨平家の惨状。※戦雲⇨戦いの殺気だった雲ゆき。

※塞上⇨平家方の陣營の辺り。※笛哀⇨敦盛の吹く笛の音が哀しげに聞こえてくる。

通釈 一の谷の合戦で、平家の軍勢は源氏に押されて、結局、支えきれずに敗走するに至った。その哀れな末路は、聞く人を悲しませずにおかない。戦いが終わり、明け方の空には残月がかかっている、平家の陣營のほうから聞こえてくる笛の音が、いかにも、もの悲しい。激しい戦いの場にあつて、見事に笛を吹く者は、いったい誰であろうか。